

汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

1. 利用情報

教育機関名	新潟経営大学
学部・学科名	経営情報学部 経営情報学科
コース名・講座名等	基礎演習 I
対象学年・受講者数	1 年次 6 名 (講座等の履修登録者数を記載してください)
講座実施期間	2014年 4月 ~ 2014年 7月
利用コンテンツ名 (該当□をプルダウンで■にしてください)	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ <input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ <input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ <input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ <input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
コンテンツの利用形態 (該当□をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	1. 利用したコンテンツ
	<input type="checkbox"/> ①シラバス <input checked="" type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド <input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド
	<input type="checkbox"/> ③講義ノート <input type="checkbox"/> ⑧受講レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題 <input type="checkbox"/> ⑨ソースコード
	<input type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	2. コンテンツの利用方法について
	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てをそのまま利用
	<input type="checkbox"/> 2. 教育コンテンツの一部をそのまま利用
	(利用範囲) _____
<input type="checkbox"/> 3. 教育コンテンツを改変して利用	
(改変範囲) _____	

講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す			
	単元と時間配分(1コマ= 90 分で実施)	プルダウンで該当項目を選択してください	
	* 短期集中講座の場合は、日単位で結構です	講義形態 (座学、個人演習、チーム演習)	単元でのコンテンツ利用の有無
1	ガイダンス:ロジカルシンキング概要	座学	有
2	ロジカルシンキングの基本となる思考	チーム演習	有
3	Whyツリーの概要と活用方法	チーム演習	有
4	Howツリーの概要と活用方法	チーム演習	有
5	マトリクスの概要と活用方法	チーム演習	有
6	問題解決(問題発見)	チーム演習	有
特記事項			

コンテンツ利用の狙い・目的	本学に限ったことではないが、学生同士の人間関係の特徴として、ごく少数の者との間だけの関係が確立すると、なじみのない者との関係が発展しないケースが多い。それを解消することは、より多様な人間と関係を築き上げる能力を涵養することを通して、より充実した学生生活を送れるようになることを意味する。本科目は表向き、論理的思考を構築することが目的となっているが、それを通して上記の問題を解決することが真の目的である。平たく言えば、学生達には、少なくともゼミの所属学生の間だけでも仲良くなって欲しいのである。
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	初年次学生ための大学生の基礎的素養を涵養するための導入教育
授業の進め方	座学→個人演習→チーム演習
産学連携で実施した場合の 企業支援内容 (該当の場合のみ)	

2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	前年度ではディスカッションに該当する内容は盛り込んでいなかった。前期終了時、学生達に聞いたところ、「もっと話したかった」という感想を得た。彼らはゼミ生同士のつながりを築きたかったのである。そのため、本教材を導入したのが経緯である。教材を導入した本年度に関しては、ディスカッションに関する不満はなかった。
教員の評価	ディスカッションそのものに慣れていないためか、ほとんど話せない者と、せっつかなくてもある程度話せる者に2極化することがわかった。前者の者が、話せるようになるカリキュラムを導入することが今後の課題である。
今後の展望 (継続に向けた課題)	学生達がもっと興味を持つテーマと、解答事例にもっと独創性がほしい。また、上記でも述べているが、話せない者が話せるようになる教材も必要である。
その他(ご意見等)	